

令和6年度 第1回近江八幡市公共下水道事業審議会 会議記録（別紙）

開催日時 令和6年10月10日(月) 10:30～11:45
 開催場所 近江八幡市水道事業所 3階AB会議室
 出席者 ◎西谷会長、○谷上副会長、北川委員、井上委員、
 中田委員、田中委員、松若委員
 欠席者 山下委員、小椋委員
 事務局 【水道事業所】中西所長
 【上下水道施設課】苗村課長、(下水道G)石原課長補佐
 【上下水道総務課】西川課長、(経理・料金G)大野課長補佐
 (経営G)友岡課長補佐、藤主事

< 内 容 >

	1. 開会
会長	2. 会長挨拶 下水道については、昨今の天候不順により、渋谷のど真ん中で逆流するなど、雨水の被害が相次いでいる。近江八幡市においても、数年前に浸水があったかと思う。このようなことも考えながら、長期にわたる経営計画を作成する必要がある、市民の方も心配であれば、その旨ご意見していただき、経営に携わる人間については、専門的な立場からご質問いただければと思う。
各委員 ・事務局	3. 委員紹介 委員→事務局の順に自己紹介
事務局	4. 令和6年度 委員会運営について 今年度の委員会の予定や内容について説明
会長	5. 議事 議事(1)～(2)については一括説明とする。事務局より説明をいただきたい。
事務局	(1) 令和5年度決算概要について 【資料1-1、1-2】に基づき説明。

	(2) 事業進捗状況について 【資料2、3-1、3-2】に基づき説明。
会長	下水は基本的には高いところから低いところに流していく。途中で超えるべき山があれば、ポンプで上げて流していき、最終的には草津市の帰帆島にある大きな処理場で処理される。そこに向かって大きな高速道路のような下水道管が南の方にあり、近江八幡市はそこに下水道を流している。 しかし、この大きい管から距離があったり、集落がまとまっていたりする場合は、農業集落排水として、その地域のみで処理をする。沖島は沖島だけで処理をしている。 下水道は雨水と汚水で分かれており、近江八幡も分流式を採用している。しかし、雨水や出所の分からない水が汚水の方に入ってくることもあり、これらを不明水と呼ぶ。不明水が増えると、処理場で処理する量も増えてしまうので、不明水対策を行っている。 経営に関しては、いろいろなところから負担していただき、なんとか3800万円の黒字とはなっているが、実際は赤字であり、厳しい状態である。
会長	マンホールポンプについて補足説明をお願いしたい。
事務局	先に会長が説明してくださったように、下水道は自然流下が原則となっている。しかし、自然流下ではどんどん深くなってしまい、深い位置だと工事費が高くなる。そのため、一定の深さになったら浅い位置に上げて、再度自然流下していく。この際に必要になるのがマンホールポンプである。また、川を超える際にも、川の下を通すのではなく、マンホールポンプの力で送り届ける。 現在、市内に82機のマンホールポンプが設置しており、維持管理しながら設備の更新等を順次計画して進めている。
会長	基本的な方向性としては、経営はカツカツであり、今後、人口減少等により使用料が減少すると、さらに経営は厳しくなってしまうということで、長期的な計画をもう一度立てていこうというのが次の議題である。

会長	議事（３）～（４）については一括説明とする。事務局より説明をいただきたい。
事務局	（３）経営状況について 【資料４－１、４－２】に基づき説明。 （４）経営計画（経営戦略）改定について 【資料５】に基づき説明。
会長	先に高速道路のようなものと説明した帰帆島までの下水道管は、県の方で管理されており、これに対して近江八幡市はお金を払っているという状況であるが、これらについて松若委員より説明いただきたい。
委員	県の方で大きい管を作り、各市町がそこに汚水を流し、県の処理場まで運ばれ、きれいにするという流れであり、処理に係る費用を市町に負担していただいている。処理に係る総額を処理した水量で割って単価を決めており、この単価に各市町の汚水量をかけて算出した額を負担金としている。単価については、５年に１度見直している。
会長	これが、近江八幡では３億円程ということになっている。
委員	県の方でも物価高騰の影響を大きく受けているが、近江八幡市での影響とその対策があれば教えていただきたい。
事務局	令和４年度と５年度の決算値の比較では、動力費については対前年比で若干減っているが、令和６年に入って、動力費だけでなく、委託料やその他維持管理に係る部分で人件費等も上がってきており、今後も上昇傾向にあると見込んでいる。これら上昇する経費も含めて、収支の計画を立てていかなければならないと思っている。 先の流域下水道域管理負担金について、次回の単価見直しが令和８年度にあるかと思うが、当市の支出の１６％程を占めているので、単価が変われば当市の収支にも影響してくると思っている。 また、若葉町で不明水対策の工事を行っているが、不明水があると、不明水の分だけ収入はないのに支出はあるという現象が起きてしまうので、不明水を減らす努力をしているところである。

会長	県の方で、処理水の流量の合計はどのように出しているのか。
委員	各市町の報告をベースとし、報告と実際の量の差額を不明水とし、不明水分は按分している。
会長	つまり、他の市町で不明水が多ければ、その分、処理水量の多い市町は負担が大きくなるという問題も起こる。 他になれば議事終了とするがよろしいか。
委員	一同異議なし。
副会長	6. 閉会 普段、当たり前に使っている上下水道は当たり前ではないということを改めて感じる場所である。気候等も変わってきており、災害の起きやすい現代である。施設についても、耐用年数のおおりにいくか分からず、大変な状況であることを身にしみて感じられる。会議に向かう際、多くの工事現場を見かけたが、下水道の工事ではないかもしれないが、ありがたみを感じる場所である。 本日はありがとうございました。